

今年最後の浦高さんのお勤めです!

●「会報『麗和』編集委員会」とは!

12月2日(金)の16時30分~17時30分は、麗和会館〔浦和高校構内、同窓会館〕にて「会報『麗和』編集委員会」が開催されました。浦高同窓会会報『麗和』については、同窓生の皆さんには年1回送らせていただいているのでご覧になった方は多いと思うのですが、編集委員会を知らないという方もいらっしゃるのでは、今回は少々PRをさせていただきます。

会報『麗和』は、来年2023年4月に発行するのが第66号なので66年前の第1号(1957年発行と思われる)がどのようなものであったかは、今後の研究課題ではありますが、私が編集に携わった2012年12月からの編集委員会の様子について記しておきたいと思えます。この時は2013(平成25)年4月10日発行第56号の編集会議でした。

【編集委員の顔ぶれ】

当時の編集委員は、星野和央さん(4回、さきたま出版会社長)、田中薫さん(11回、毎日グラフ編集長、宮崎公立大学教授、故人)といった出版に携わられたプロのOB、小島正徳元同窓会事務局長(14回)、鯨井光夫事務局長(19回)、校内幹事の現役浦高在籍の先生方7人に編集は素人の私といった顔ぶれでした。

その後、校内幹事の異動やOBの方々の変更があり、今回の編集委員は、星野和央さん(4回)、鯨井光夫さん(19回、元同窓会事務局長)、藤野龍弘さん(22回、事務局次長)、篠田雅彦さん(32回、事務局長)、そして私・香田寛美(25回)、そして校内幹事7人(40回から69回)という顔ぶれです。編集委員長は、校内幹事の中から選ばれ、代々引き継がれています。

【第1回編集会議】

第1回編集会議は、12月初旬に開催され、ページ割付の検討を行い、特集をはじめとした各ページの記事づくりや原稿依頼の方針を決め、担当者を充てるというものです。

【原稿依頼/原稿づくり】

その後、各担当者は執筆を依頼する場合には、OB等と連絡を取り、1月中旬を目安として寄稿を依頼します。また、特集などの担当者は、資料を当たり記事の作成を行います。

【原稿締め切り】

1月20日前後に原稿締め切りがあります。

【第2回編集会議】

1月下旬に集められた原稿が編集委員の元に届けられ、各自が読み込んだ上で2月上旬に第2回の編集会議が行われます。ここでは原稿のボリュームやストーリーなどがチェックされます。特に、校内幹事の皆さんが執筆された「特集」部分については、OBからの注文も多く毎回2時間を超える会議となります。

【現行の修正・捕捉等】

その後、原稿の修正や捕捉が行われ、2月中旬に印刷所に原稿が回されて、初校が組まれます。

【第3回編集会議】

第3回編集会議は、3月中旬に行われます。事前に印刷所からの初校が配布され、全体の構成や文字使いなどの流れを見渡すことができます。編集会議では、読み合わせも行われて誤字脱字や言い回しなど細かな点も修正が入ります。会議の意見が取りまとめられて、編集委員長から印刷所に戻されます。

【第2校正】

第2校正は、編集委員に配布されて、各自で最終確認が行われ、意見は事務局と編集長に寄せられます。編集委員長は意見を取りまとめて、第2校を印刷所に返します。写真などはフィックスされます。

【第3校正・印刷】

4月初旬に第3校正が事務局と編集委員長に届けられ、最終校正が行われ印刷となります。

【発送】

4月中旬から5月初旬にかけて26,000部近くの会報『麗和』が同窓会会員全員の手元に届きます。ただし、個人情報保護の関係から住所を伏したいという方が増えており、最近発行部数が若干減っているかもしれません。

【内容/目次】

会報の内容は、「表紙/目次」「会長挨拶」「特集(浦高や同窓会に関する記事)」「地域職域同窓会責任者会議報告」「百年の森通信・浦高奨学金財団」「果てなく広がる同窓の輪(各回の同窓会など)」「麗和セミナー」「声(同窓生による寄稿)」「学校はいま(人事異動・進路状況)」「同窓会総会レポート」「事務局通信」とスタイルは10年間定着したままですが、同窓会と母校の活動についてできるだけ網羅して会員にお知らせしています。



第56号/私が最初に携わった会報です

私が編集委員を務めてから記憶に残る特集は、「母校130周年記念特集」(2016年、第59号)、「浦高ラグビー部花園での活躍」(2014年第57号、2020年第63号)でしょうか。前回のラグビー全国大会のように同窓生がワクワクするような話題を提供したいと思います。さて、「夏炉冬扇」を書き続けていることで星野さんたちから認められた編集委員の重責、そろそろ後進を育てる時期ですね。